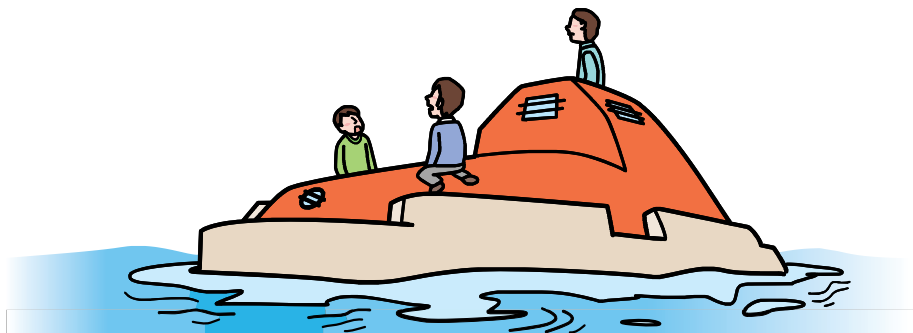


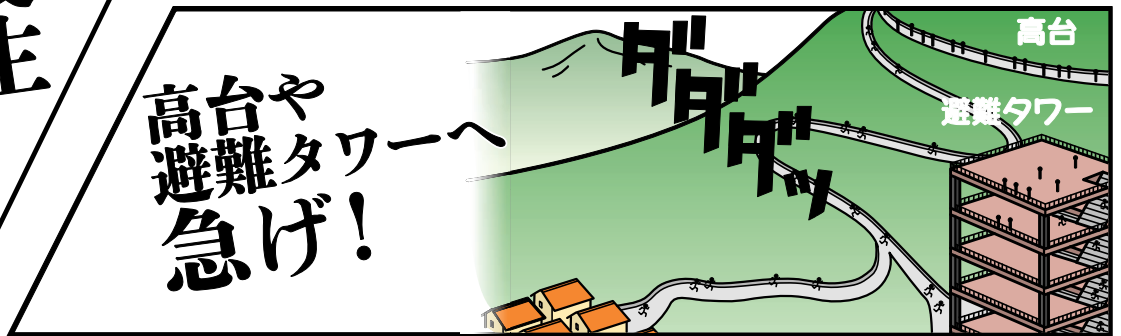
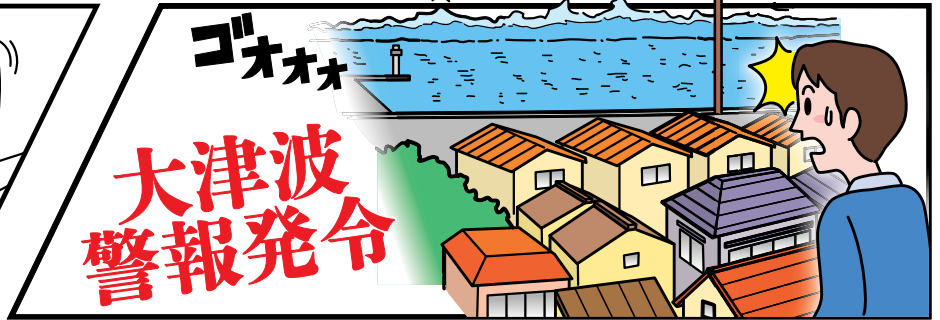


# 浮いて 生き延びる

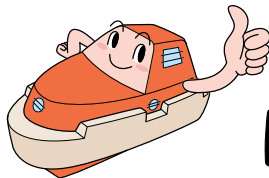
つなみ きゅうめいてい  
**津波救命艇**



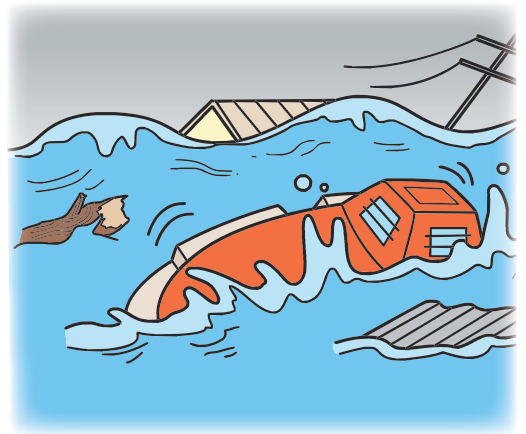
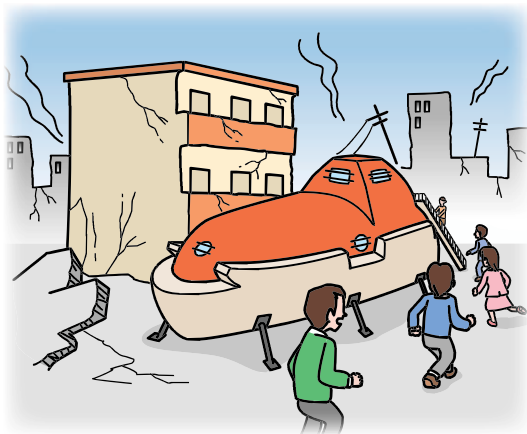
# 大津波が襲ってきたら !!



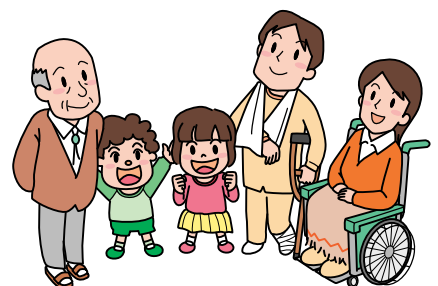
津波救命艇  
そこで!



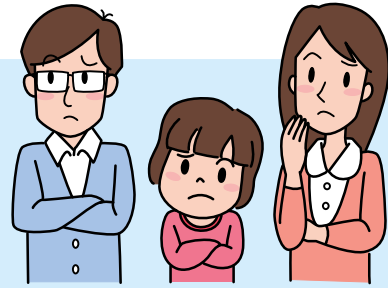
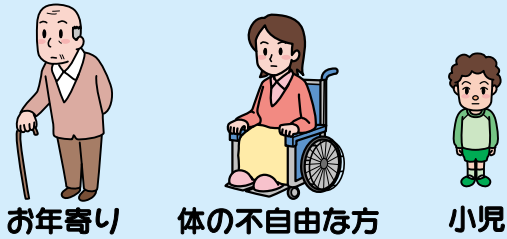
ぼくの出番です



家や職場、学校などの近くに つなみ きゅうめいてい 津波救命艇  
これに乗って命を守ろう!



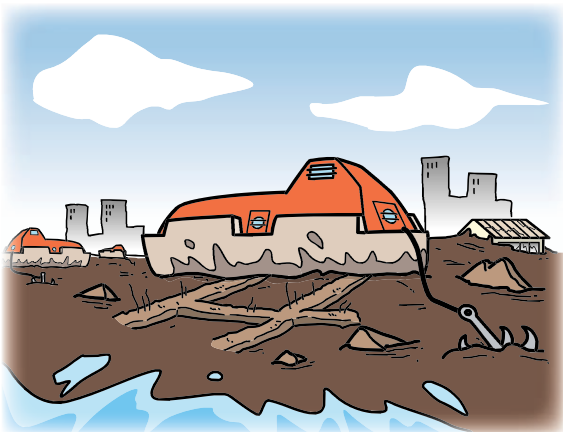
# でも?!



▶ 誰かが抱きかかえたり、背負って避難するしかありません

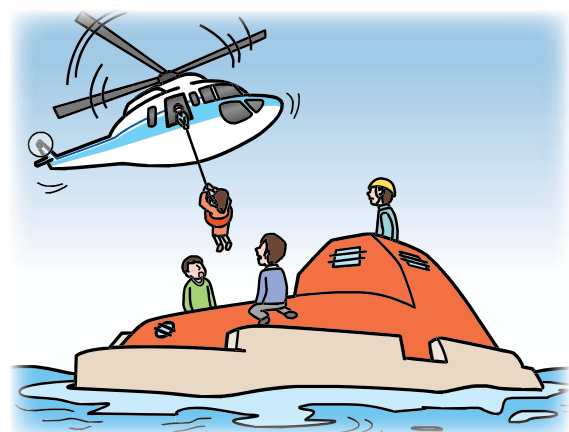
▶ 避難するのに時間がかかります

## 津波が引き始めたら 地面に着地



はじめに津波救命艇は内陸部に流され、津波が引くと着地して陸に残ります。海に流されそうなときは、おしりについている錨（アンカー）を降ろして、沖合に流れ出るのを抑えます。

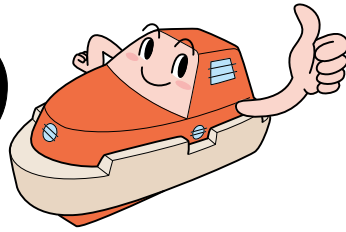
## もし、海に 流れ出てしまったら?



津波救命艇は、自分の位置を自動的に知らせる装置を持っています。また、艇体はどんなに海が荒れてもこわれたり、沈んだりしません。海上保安庁や自衛隊などが責任を持って救助してくれるので、安心して津波救命艇の中で待っていてください。

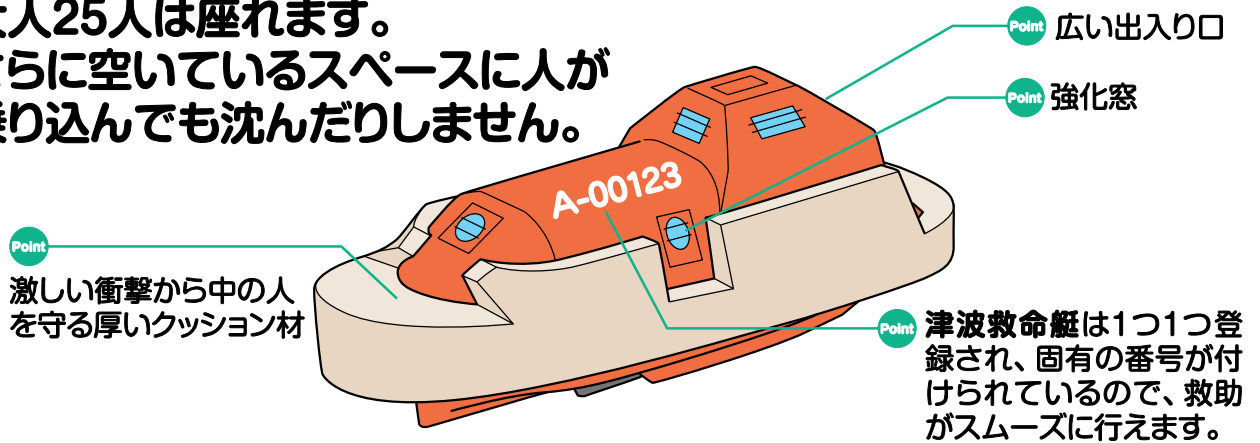


# 津波救命艇って どんなもの？



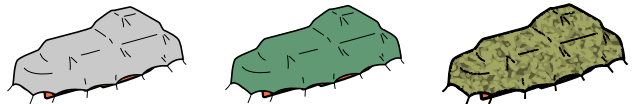
## 津波救命艇の外形図（全体図）

大人25人は座れます。  
さらに空いているスペースに人が  
乗り込んでも沈んだりしません。



希望に応じて色とりどりのカバーで覆います（景観に配慮できます）

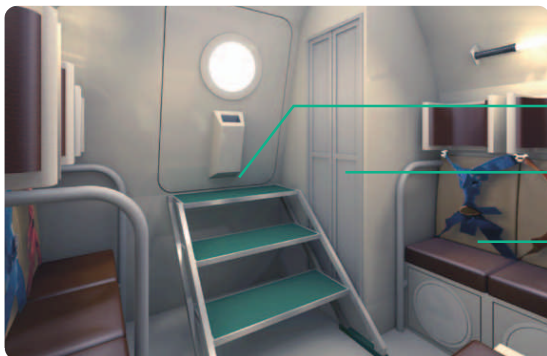
技術開発元：株式会社IHI



## 津波救命艇の内部（内装）



**Point** 壁は二重になっているので、万一、外側の壁が傷ついても、浸水を防ぎます。側面にとがったものが突き刺さっても中の人がケガをしないよう、座席の後ろには非常に硬い材料でできた板が入っています。



**Point** 貯蔵庫には水や食料が7日以上、常備されてます。その他、医薬品や衛生用品、防寒シート、予備の乾電池、充電器など、様々な生存キットが備えられています。

**Point** 広い出入り口

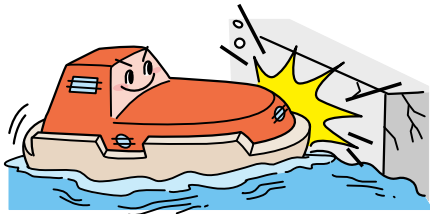
**Point** 個室トイレ

**Point** 津波にもまれて激しく揺れても中の人がケガをしないよう、シートベルト、ヘッドレスト、弾力性の高い座席シートを採用しています。

こわれない、沈まない、転覆してもすぐにもとに戻るすぐれものです

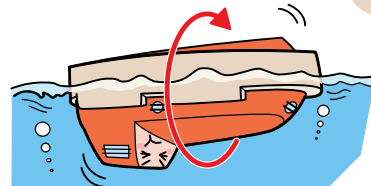
## 津波救命艇の特長

### 壁に激突しても



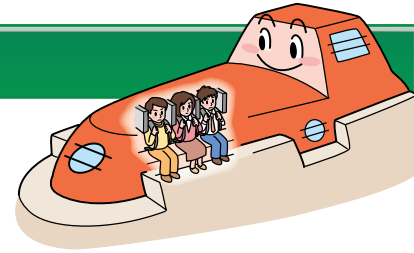
津波の濁流に乗って建物に衝突しても、大きなガレキがぶつかっても大丈夫！中の人を守ります。（東日本大震災での最速クラスの津波を想定して設計されています）

### ひっくり返っても

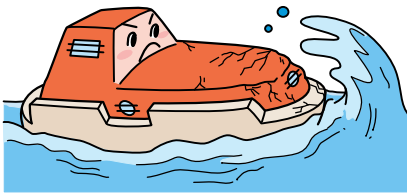


万一、ひっくり返っても、すぐに戻ります。中の人もシートベルトで安心です。

起き上がりこぼし  
みたいでしょ

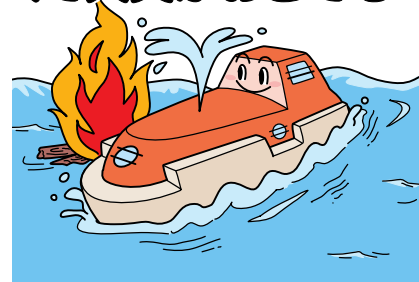


### 割れ目から水が たくさん入っても



どんなに水が入ってきても、厚い壁には発泡スチロールのような充填剤がぎっしり詰まっているので沈みません。

### ちかくで火災がおきても



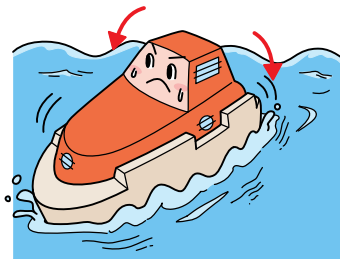
艇体は燃えにくい材料でできていて、手動スプリンクラーで上部から散水します。

### 漂流中に倒壊してきた がれきの下敷きになっても



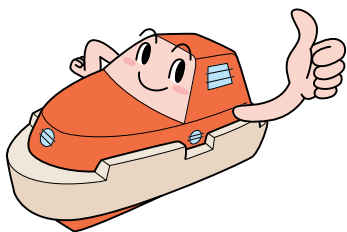
浮き上がる力が最大で約30トン(1トン=1,000kg)あるので、そのまま水中に押さえつけられたまま、ということはありません。

### でも、やっぱり揺れるよ



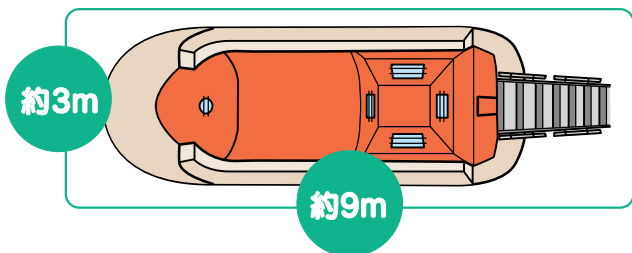
最新の造船技術を活用して、できるだけ揺れない工夫はしているけれど、生き延びるためには仕方がない。ちょっとがまん！（中には船酔い防止の薬もあります）

# 津波救命艇の 使い方

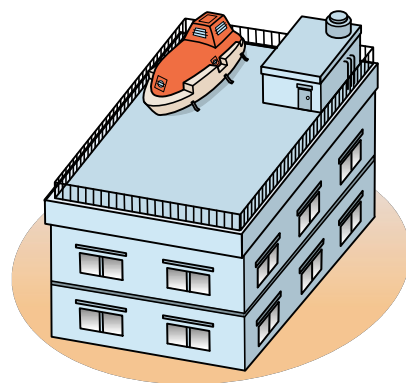


## 津波救命艇の設置場所

## どんな所に置けるの？

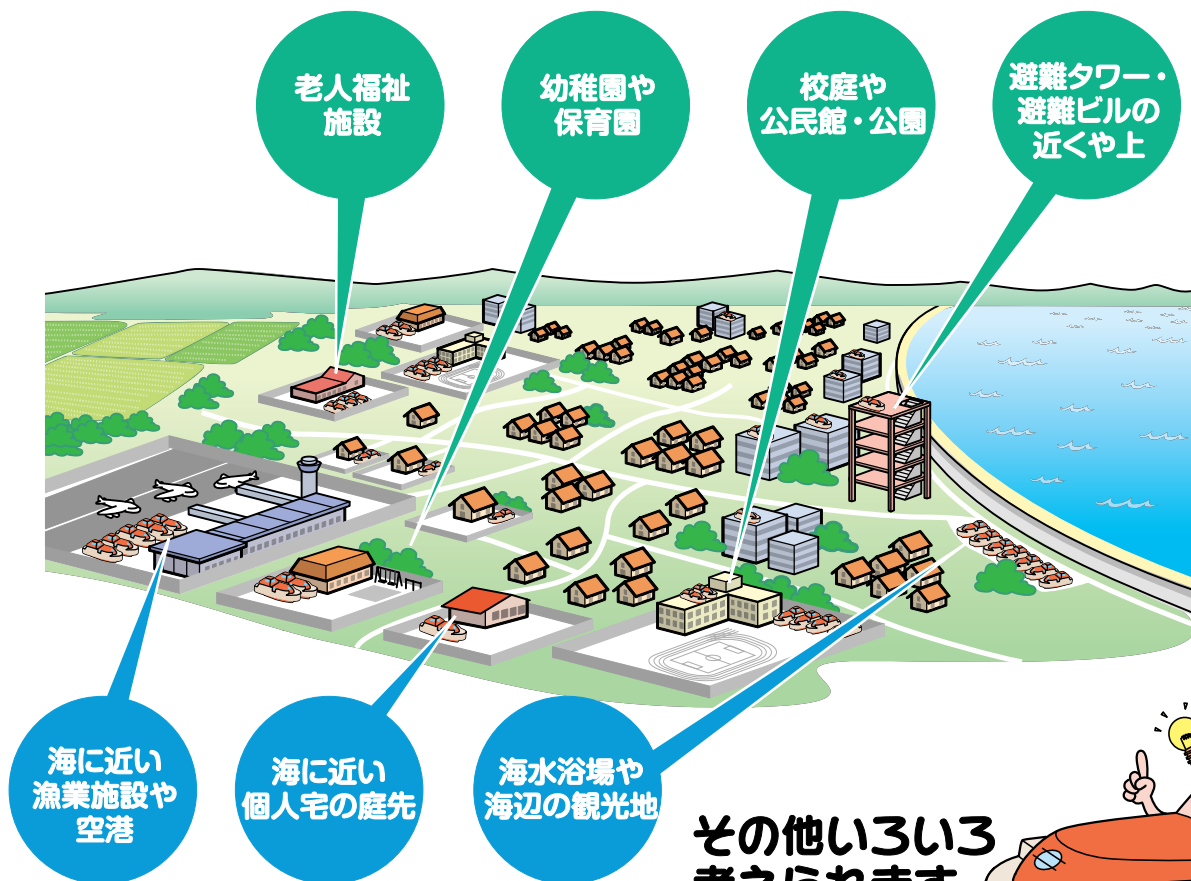


このスペースがあれば、設置可能です。  
(大がかりな基礎工事は不要です)

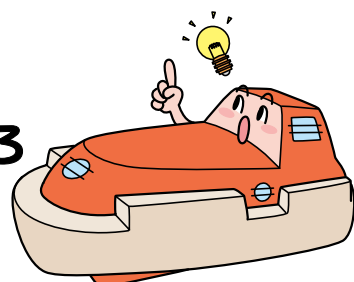


平地が無くても、ビル屋上などにも  
設置可能です。

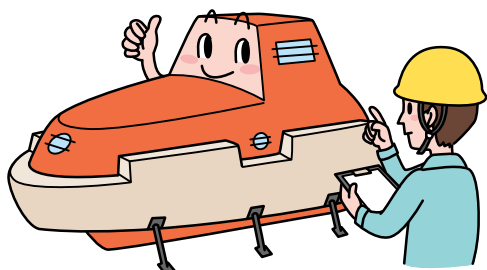
## 津波救命艇の設置例



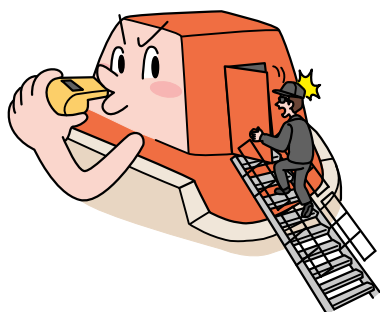
その他いろいろ  
考えられます



## 訓練と維持管理



いつ来るかわからない津波に備える津波救命艇ですから、専門家が定期的に周りの住民の方に設備の使い方や生き延びるテクニックなどを講習することが大切です（防災訓練です）。また、その際に設備の健全性を確認することもできます。

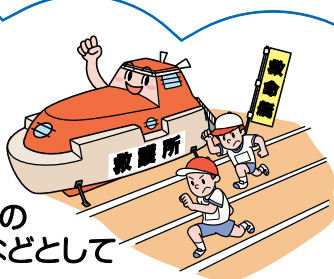


不審者の侵入や中の品物の盗難を防止するため、扉を開けると大音響の警報装置が作動し、同時に管理会社に通報されるシステムなど、保安対策も重要です。

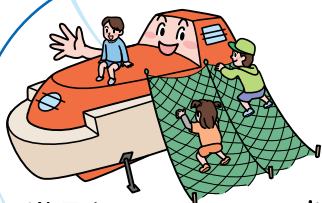
## 普段はこんな使い方もできます



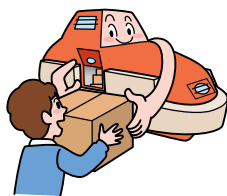
集会所として



イベントの  
救護所などとして



遊具として

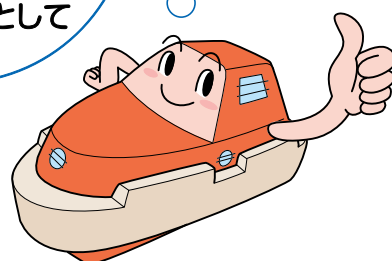


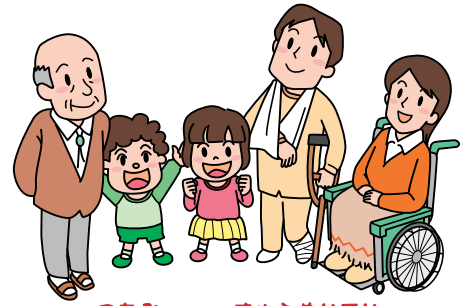
地区の防災倉庫として



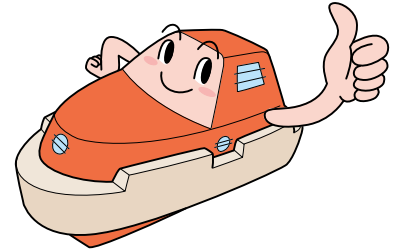
台車をつけて  
キャンピングカーとして

でも  
大津波の時こそ  
出番ですが





つなみ きゆうめいてい  
**津波救命艇**



技術開発元：株式会社IHI

## 四国運輸局からのメッセージ



四国運輸局長の丸山です。

東日本大震災では、津波で多くの方が犠牲になりました。心よりお悔やみ申し上げます。

二度とこのような悲劇が繰り返されないためにも、国を挙げて様々な防災、減災の対策が検討されています。

津波警報が出たら、まず高台などに避難するのが第一ですが、それが難しい多くの方のために開発しているのが津波救命艇です。住居の近くに設置することで、仮に津波が深夜に発生しても、津波救命艇に入って生き延びる可能性が非常に高くなるものと考えています。

防災対策にオンリーワンはありません。これがあれば十分というような対策はないと思います。二重、三重の対策が尊い命を守ることに繋がるのです。

このパンフレットは、津波対応型救命艇技術検討委員会の議論を踏まえて四国運輸局が作成しました。避難タワーなどの防災対策とともに、この津波救命艇を活用し、1人でも多くの命が津波から守られますことを祈っております。

## 国土交通省 四国運輸局

〒760-0068 香川県高松市松島町1丁目17番33号  
TEL：087-835-6351 FAX：087-831-5286

問い合わせ先 津波救命艇普及対策室  
TEL：087-825-1174 FAX：087-825-3412  
E-mail：Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp